Ⅰ　ワークショップの概要

1　ワークショップ全体の目的

（1）調査の目的

都市的地域と農村地域などの地域間連携によるレインボープランの広域化

（2）ワークショップの目的

開かれたレインボープランへのきっかけ作り

2　各回ワークショップの概要

（1）第1回ワークショップ

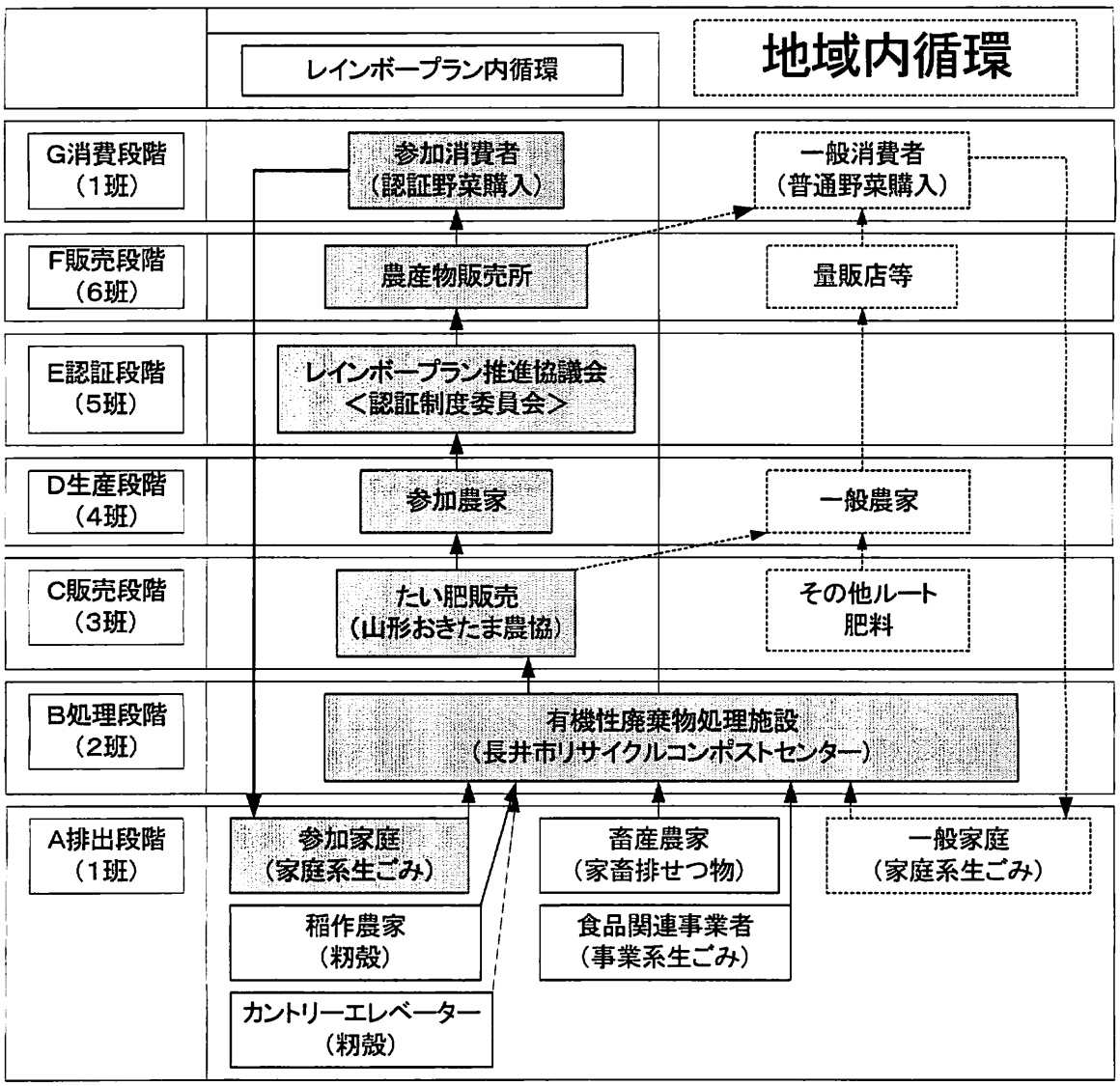
◍開催日時：平成１７年２月２５日（金)、午後１時３０分～午後５時
◍作業目的：

作　業	内　容
作業 1：課題だし	自班の課題で、自班で解決すべき課題を検討する
作業 2：要望だし	他班の課題で、他班が解決すべき課題を検討する
作業 3：取組み時期の決定	課題と要望を取組む時期の決定する

（2）　第2回ワークショップ

◍開催日時：平成１７年３月１６日（水)、午前１０時～午後４時
◍作業目的：

作　業	内　容
作業 1：課題解決策の検討	自班の課題を自班で解決する策を作成する
作業 2：要望解決策の提案	他班の課題の解決策を提案する
作業 3：提案に対する回答の検討	他班からの提案に対して回答する


レインボープラン内循環
地域内循環
G消費段階（1班）
参加消費者（認証野菜購入）
一般消費者（普通野菜購入）
F販売段階（6班）
農産物販売所
量販店等
E認証段階（5班）
レインボープラン推進協議会＜認証制度委員会＞
D生産段階（4班）
参加農家
一般農家
C販売段階（3班）
たい肥販売（山形おきたま農協）
その他ルート肥料
B処理段階（2班）
有機性廃棄物処理施設（長井市リサイクルコンポストセンター）
A排出段階（1班）
参加家庭（家庭系生ごみ）
畜産農家（家畜排せつ物）
一般家庭（家庭系生ごみ）
稲作農家（籾殻）
食品関連事業者（事業系生ごみ）
カントリーエレベーター（籾殻）

１班：農産物の購買や生ごみなどの排出者

購買・排出段階

消費者（長井市住民）	
排出者	購買者
＜課題＞ ○水切りの指導を受ける ○生ごみの水分がたい肥の質を左右することを理解する。	＜課題＞ ○レインボーを正しく理解する。 ○安全・安心の食を学ぶ場に積極的に参加する。

＜他段階からの提案＞
○行政等による定期的な生ごみの処理方法の指導
○ＪＡ、生産者組織と協力して、食農教育に取組む
○生産者コストの透明化と適正利益への理解、など

◍ワークショップの感想

○**さまざまな立場、職業の人と一同に集まったのは初めてだと思う。**今までのレインボープランの経過で一番求められていたことだと思う。改めていろいろな問題点、要望を複数人で出し合うと、全体像がよく見えてくる。多いに役立つと思う。
○今まで、生ゴミ資源排出・消費者側としてしかわらず、他の部門については無知同然であったが、今回のワークショップで全体像や問題点が見えて大変有意義であった。
○さらなるレインボー計画の発展をめざして”のテーマ通り奥深いけれど希望のあるワークショップだと思います。低迷する農業に少しでも光が見出せて生産者の力になれれば幸いと思います。
○消費者として安全、安心の農産物を求めています。生産者の高齢化、減反政策等も考えつつ、生き残れる農業の一つにレインボープランがあると思います。
○今もレインボー野菜を使用していますが、生産者、消費者の個々の意見を聞けたこと、行政の声を聞けたこと、単にレインボー野菜ということでなく、奥深いものを感じました。**レインボー推進していく上でこんなに問題点、協力してもらわないといけない事があることを知ることができました。**今後、農家、市民、行政、頑張っていきましょう。より一層協力していきたいと思います。

2班：たい肥処理の段階

たい肥処理段階

長井市リサイクルコンポストセンター

＜課題＞
○搬入料金の平準化
○原材料の受入れ量に限界があるので、施設を増設するか、他の施設の協力を仰ぐ
○たい肥の品質を良くするため塩分の含有量が少ない原材料に変える、など

＜他段階からの提案＞
○季節によって生ごみの内容が違うので年5、6回の成分分析とほ場での実証実験を行う
○現在の個人等で所有しているたい肥施設は中間処理施設と位置づけ、他のたい肥を含めて、リサイクルセンターを総括的なセンターとして位置づけてそこに中間処理させたたい肥を集積し、仕様形態別にブレンドする、など

●ワークショップの感想

○テーマと基本的な事項について共通認識をキチンとした上でワークショップを行ったらよかった。
○久々に長時間の討議を行いおもしろかった。
○堆肥の意味合いやその他の言葉、とらえ方が参加者によりまちまちであり班として議論するのに問題があった。
○現況のレインボー堆肥の生産量からみて、それだけで農産物に付加価値を高めるのは無理がある。（量を多くする）

３班：レインボーたい肥の販売段階

レインボーたい肥販売段階

山形おきたま農協

＜課題＞
○他の量販店でも秋期などに販売する
○たい肥の使い方について講習会を開く
○たい肥のＰＲを行う
○たい肥の成分表示をする、など

＜他段階からの提案＞
○常にレインボーたい肥を説明できる人をおく。また作目別たい肥使用のパンフレットを作成する
○基本的な使用方法や使用量を袋に表示する。
○達人といわれている生産者の栽培履歴をＨＰで情報提供する、など

◉ワークショップの感想

○テーマを分けて話しあいをするので、これまで出なかったり、取り上げられなかった意見も表面化してきた。
○それにしても、長年叫ばれていた”もの”の流れを単純に実感できる場”虹の駅”がようやく実現しようとしている、生産消費に火を灯してくれることを願っている。
○解決策についてもこれまでにない視点の意見が出て、新しい方向性が見出せそうに思えました。
○自分達の班以外からの提案や要望もより広い視点からのものがあり、視野を広げる良い会議であった。
○ただ「オーバーザレインボーとして、今のレインボープランの枠を越えた取組みが必要である」といった方向性を導き出すまでに到らなかったように感じる。

４班：認証農家などレインボーたい肥の利用段階

レインボーたい肥利用段階

認証農家

＜課題＞
○認証野菜の栽培基準を統一する
○レインボー野菜のブランド化を図る、など

＜他段階からの提案＞
○消費者との距離を埋めるためにも農家からのメッセージ、想い、食べ方などをつける、
○認証にかかわる事務的なスケジュール（生産カレンダー付き）を生産者と協議して作成する
○ＪＡ、生産者組織と協力し、生産者と子供達が一つのテーブルを囲む機会をつくる、など

ワークショップの感想

○はじめての経験ですが、楽しみながら参加できました。実際にレインボーの肥料を使っていないので(農場では使っているけど、個人的にはよく知らない)、使っている方々の声が聞けて良かったと思います。
○いろんな方と出会えて、色々な意見をきけて、大変良かったと思います。私、個人的には堆肥のことは全くわからなかったので、大変勉強になりましたので、このような機会を与えていただいたことに感謝します。
○建設業界には YKK？とかで安全対策をする手法にも参加した事はあったが、農業問題でもこの方法でも問題解決方法がある事が分かりました。

5班：農産物の認証段階

農産物認証段階

レインボープラン推進協議会（認証制度委員会）

＜課題＞
○生産管理記録を役所と農協で一本化する
○認証委員会が事務局の認証許可の進捗状況を管理する
○レインボー協議会主催の試食会を年1回開催、認証野菜の「安全・安心」を理解してもらう、など

＜他段階からの提案＞
○“レインボープラン”ニュースのような広報誌を市報配布時に配る

◉ワークショップの感想

○課題山積でジリ貧状態のレインボープランにとって、新風を感じる取り組みです。地域外の方、第三者がこの課題を冷静に分析・検討されれば、今までとは違った考え方・方向性が期待されます。理念にしばられた原状を脱皮し、経済的にもメリットがある事業にしたいものです。
○今、問題にしている認証の件について検討され大変良かったと思います。成果を期待しております。
○役所と住民の方がやるべきことについて相変わらずのズレを感じる。
○停滞気味であったＲ・Ｐに、客観的にメスを入れていただき根本的見直しができたことは良かったのではないでしょうか。
○今後に向け、継続的に確認の場を設けていけたら、すばらしい共働のまちづくりが実現できるのではないでしょうか。

６班：認証野菜の販売段階

認証野菜販売段階

ＪＡ直売所「愛菜館」など認証野菜取扱店

＜課題＞
○安心・安全が見える形での販売
○生産者の顔が見える流通システム
○高齢者世帯への宅配サービス
○朝市、夕市などのイベントの定期的な開催
○鮮度の保持、など

＜他段階からの提案＞
○野菜の説明やレシピをつくり、販売所に置く
○余剰分の域外出荷（仲卸機能、情報収集機能など）に対応できる体制の確立
○小口生産者のため中継ぎ組織として地域ごとに野菜収集場を設け、そこから取扱店に搬送する
○認証野菜をバラ売りする、など

●ワークショップの感想

○長井のレインボーを「理念」だけにして、それにのって生産・販売・消費していけば今のようなぎこちない形になるのではないだろうか。「エコファーマー」のように、こだわりや意思があればエコファーマーになれるというように、地域全体での安全な循環の農作物づくりと、消費者の食生活の見なおし、意識を高め、長井を住みやすい、いいまちにしていく素材としてレインボーを利用していけば、よいと思う。
○課題のレインボープランの推進には、今さらながらの問題と思わないでもないが、沢山の問題点がある事を知った。
○初めてこの形式の意見発表の場にのぞんだ。全体進行形式と違い１人１人の意見が尊重される。意見が出しやすい。 ○分科会形式にも似ているが、毎分科会の意見の相互交換が出来てストレスがなかった。

問１　新たな挑戦に向けた心の準備は？

「やるか、やらないか」の次元

インパクト／現状の変革	痛み／デメリット	喜び／メリット
変える	A ○理念を損なう ○信頼が低下するかも ○収集・分別が大変 ○たい肥の品質低下が心配、など	B ○より多くの消費者に認証野菜を提供できる ○より多くの方に自分達の活動を評価してもらえる ○いろいろな出会いがある、など
変えない	C ○狭い範囲でしか認証野菜が出回らない ○認知度が低い ○人脈が広がらない、など	D ○いまのままの理念こそＲＰにふさわしい ○充分信頼されている ○いまのシステムが気に入っている、など

「グレムリンの甘いささやき」といいます、

◍新たな挑戦に向けて準備完了＝**「B＋C」**＞「A＋D」の状態
◍まだまだ無理かな、⇒「A＋D」＞**「B＋C」**の状態

問２　心の準備はできた、残る問題は・・・

「できるか、できないか」の次元

◍良質なたい肥を製造する技術的な問題か
◍有機性資源を受け入れるたい肥施設の拡充など施設整備の問題か
◍たい肥の量が増えれば財政負担も増すというコストの問題か

いずれにしろ、解決不可能でないかぎり、「できる」ことである。

さて、どうしますか？